

誰もが安心して生活できる地域として

新型コロナウイルス感染防止のために、みんなで「新しい生活様式」を意識し、3密の回避、また、マスク・手洗い・換気などを心がけて生活する日々が続いています。時には、やりたいことを我慢しながら頑張っています。それでも、感染者の発生状況は改善されるどころか拡大傾向にあり、心配や不安を抱えての毎日だと思えます。

発生当初に比べると、医療対応もずいぶん進み、ワクチンの完成も近づいてきているようです。しかし、「いつ、どこで、誰が感染してもおかしくない」状況は変わっていません。この不安や恐れのためか、身近に感染者が出ると、その人やその家族に誹謗・中傷が浴びせられ、偏見・差別・人権侵害となる事例が、全国のいたるところで起こっています。感染したことだけでも辛いことなのに、それに加え、近隣住民から避けられるなどのひどい偏見や差別を受けるケースが発生しているようです。このような第二の不安・恐れといえる誹謗・中傷・偏見・差別・人権侵害が、大きな社会問題になっています。

困難や非常事態に遭遇したとき、不安や恐れが人を変えてしまうことがあります。そんな時こそ冷静な考え方や行動が求められます。そこで、地域の皆様に以下の①～④についてお願いしたいと思います。

- ① 感染者が身近に出た時、「早くよくなるといいね」「よくなってよかったね」と、どんな時でも思いやることを失わない、心温かい地域でありましょう。
- ② 万一自分や家族が感染したとしても、悲しく辛い思い（誹謗・中傷などを受けること）をすることなく、「岡山市の住民で良かった」と安心して感謝し合える地域でありましょう。
- ③ 新型コロナウイルス感染症に対する正しい情報（公的機関が提供する情報）を共有し、悪い情報ばかりに目を向けず、差別的な言動に同調しないようにしましょう。
- ④ こんな不安な時だからこそ、お互いに前向きな声かけをしていきましょう。大人も子どもも安心して生活できる地域をつくるのは、私たち一人ひとりです。

STOP コロナ差別

令和3年1月

岡山市連合町内会会長 久世 英一
岡山市長 大森 雅夫
岡山市教育長 菅野 和良